

いわた ふるさと散歩

豊岡編
磐田文化財マップ



獅子ヶ鼻

北遠と南遠の接点

豊岡地区の文化財

磐田市北部の豊岡地区は、山間・丘陵部、天竜川によって造られた肥沃な平野部、太田川の支流である敷地川の流域部からなります。遠州北部（北遠）と遠州南部（南遠）の接点となる豊岡地区は、山間部と平野部を結ぶ中継地・要衝として古代から重視されてきました。

弥生時代には敷地川流域に蔵平遺跡が、一雲済川流域に新平山遺跡などの集落が営まれました。弥生時代を代表する青銅器である銅鐸が出土した西の谷遺跡は、弥生時代の歴史文化を知る上でも貴重な遺跡です。

丘陵部には古墳も数多く造られました。これらの古墳の中でも血松塚古墳はこの地区で最初に造られた前方後円墳と考えられ、市史跡に指定されています。

奈良時代から室町時代にかけて岩室には大規模な伽藍を擁する寺院が建立され、山岳宗教の拠点として繁栄しました。遠江一円の武家・庶民の間で信仰され、鎌倉時代の守護も訪れたことがあったようです。また、今川・武田・徳川氏等が抗争を繰り返した戦国時代には、戦略上重要な位置を占め、丘陵などの地形を巧みに利用した社山城や亀井戸城などの城館が築られました。

磐田市概略図



1. 獅子ヶ鼻公園
2. 豊岡駅
3. 社山城跡
4. 豊岡総合センター
5. 米塚古墳
6. 銚子塚古墳・小銚子塚古墳
7. 長者屋敷遺跡
8. 新豊院山古墳群
9. 磐田市立総合病院
10. 磐田スポーツ交流の里ゆめりあ
11. 磐田インターチェンジ
12. 遠州豊田パーキングエリア
13. 鶴ヶ池
14. 桶ヶ谷沼
15. 甕塚古墳
16. 熊野の長フジ
17. アミューズ豊田
18. 旧赤松家記念館
19. 埋蔵文化財センター・中央図書館
20. 矢奈比売神社(見付天神)
21. 旧見付学校
22. かぶと塚公園
23. 京見塚古墳
24. 遠江国分寺跡
25. 磐田市役所
26. 府八幡宮
27. 善導寺大クス
28. 城山球場
29. ヤマハスタジアム磐田
30. 香りの博物館
31. 松林山古墳
32. 医王寺
33. 堂山古墳跡
34. 大池
35. 静岡産業大学
36. なぎの木会館
37. はまぼう公園
38. ゴルフ場
39. 掛塚灯台・風竜
40. 竜洋海洋公園

し し が はな 獅子ヶ鼻公園

100m余りも切り立った崖の上に、獅子の鼻のように見える岩がそそり立ち、この地区の奇勝として知られています。名前の由来となった「獅子ヶ鼻」は、昔「牛ヶ鼻」と呼ばれていましたが、江戸時代末期の安政の大地震で一部が欠け落ち、現在の名前になったようです。この岩から見下ろす景色は絶景です。



獅子ヶ鼻から南を望む

発行・編集 磐田市教育委員会文化財課

〒438-0086 静岡県磐田市見付3678-1 TEL0538-32-9699

発行日 平成19年3月 平成24年12月 改訂

市指定文化財 松井氏首塚と供養塔

今川家家臣であった二侯城主・松井宗信^{むねのぶ えいしろう}は永禄3年(1560)、桶狭間の戦いで戦死しました。宗信の首は、戦場から持ち帰られ、菩提寺である天竜院の墓地に手厚く葬り、供養塔を建てたと伝えられています。天竜院本堂西側墓地の一面に五輪塔と宝篋印塔^{ほうきょういんとう}があります。



松井氏首塚

市指定文化財 社山城跡^{やしろやま}

社山の標高約130mあたりに築かれた平山城。築城年代は不明ですが、15世紀末には存在していたようです。16世紀初頭には斯波氏と今川氏の抗争の場となり、後に今川氏の支配下に置かれました。桶狭間の戦いで今川氏が敗れ、勢力が弱まった後には徳川氏の支配に移りましたが、元亀3年(1572)、武田氏の遠州侵入により、徳川氏と武田氏による抗争の場となりました。城跡には、曲輪^{くるわ}、堀切^{ほりきり}、土塁^{どるい}などが残されています。



天竜川方面から社山城跡を望む



社山城跡(一の曲輪跡)

西の谷遺跡と銅鐸^{にし や どうたく}

銅鐸は弥生時代を代表する青銅器で、まつりの道具として使われていました。大きさは20cm前後のものから100cmを超える大型品まであります。市内出土の銅鐸は敷地地内の西の谷遺跡から3口発見されています。明治23年(1890)に地元の人たちが山芋掘りに出かけたとき、偶然2口発見し、平成12年(2000)に第2東名工事に伴う発掘調査で1口発見されています。これらの銅鐸は東京国立博物館、兵庫県・辰馬考古資料館、静岡県が所蔵しています。



県指定文化財 西の谷遺跡出土敷地3号銅鐸
(静岡県教育委員会蔵)

市指定文化財 岩室廃寺跡(観音堂)と仏像群^{いわむろ はいじ あと}

岩室地区の獅子ヶ鼻公園周辺に建立された寺院で、奈良時代から室町時代にかけて山岳宗教の拠点として発展したと考えられます。現在、寺院はなく、獅子ヶ鼻公園の一角に観音堂がありますが、この観音堂を中心に礎石が並ぶ御堂跡や石段があります。周辺から瓦や土器片が数多く出土し、大日如来の頭部や菩薩像2体が残されています。また、敷地川の西側にも塔跡礎石が残るなど大規模な伽藍を擁する寺院であったようです。



観音堂



大日如来



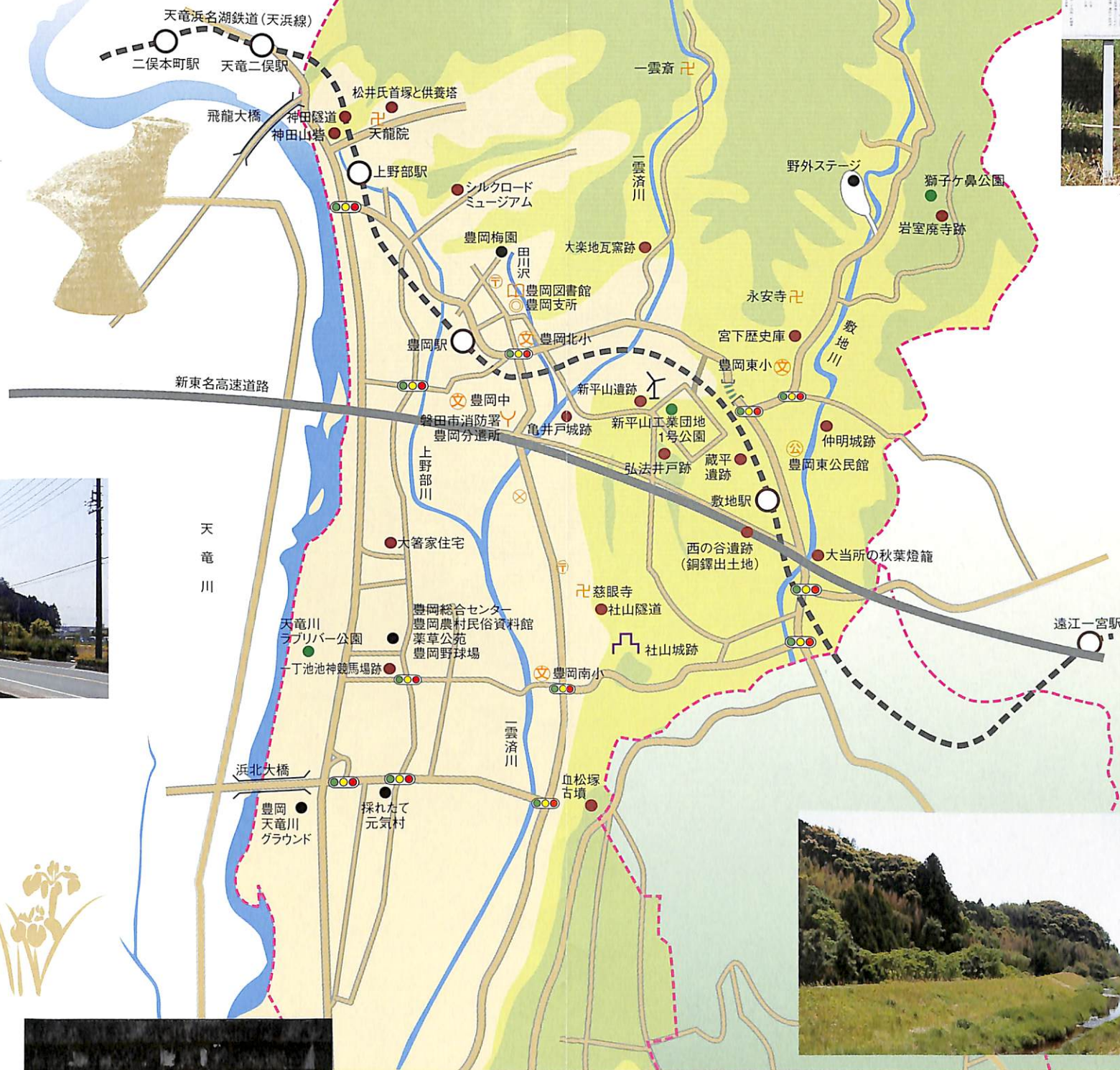
血松塚古墳(左が後円部)

市指定文化財

血松塚古墳^{ちまつ}

5世紀後半に造られた全長48mの前方後円墳です。豊岡地区にある古墳の中で最大の前方後円墳です。

豊岡地区の歴史と文化財



かん だ やまとりで 神田山砦跡

二侯城と亀井戸城のほぼ中間に位置し、天竜川を見下ろす場所に築かれた砦です。徳川家康が二侯城を攻略するための砦と考えられます。

だいらくじ が よう 大楽地瓦窯跡

熊野神社の南斜面に築かれたと考えられ、10世紀後半の陶器・瓦の破片が出土しました。岩室庵寺で使用された瓦もこの窯で焼かれたと考えられます。

かめ い ど じょう 亀井戸城跡

一雲済川沿いの丘陵上に築かれた平山城です。築城年代等は不明ですが、武田氏が遠江に侵攻し、二侯城を攻略する際に本陣にした場所と考えられ、曲輪等の遺構が残っています。

国登録有形文化財

大箸家住宅

大箸家は江戸時代の造り酒屋として栄えた旧家で母屋、蔵、門、庭など屋敷全体が当時の面影を残しています。現在、民間文化施設「花咲乃庄」として一般公開されています。

いっちょういけいけがみけい ばじょう 一丁池池神競馬場跡

池神競馬と呼ばれた草競馬場で、昭和24年(1949)ごろまで行われていました。一丁池の周囲を馬場として行われていました。一丁池は、天竜川の洪水でできた池で、池の幅が一丁(109m)あったことから名付けられたようです。

せい どう 社山隧道

敷地川、太田川などの中小河川を生活・農業用水として利用していた村々は、しばしば渇水に苦しんでいました。この渇水問題を解決するために、天竜川の水を引き入れ、社山で隧道(トンネル)を掘り、敷地川、太田川方面に水を引く計画がされました。難事業でしたが、昭和19年(1944)に完成しました。

おお どう しょう 大当所の秋葉燈籠

大当所村の庄屋・山下政彦が寄進した秋葉燈籠です。山下政彦は天明元年(1781)、国学者・内山真竜の門下生となり、国学の研究と詠歌の実践を行うとともに、私財を投げ打ち、村の公共事業に力を注ぎました。

しん ぺい やま 新平山遺跡・古墳群

現在、新平山工業団地がある丘陵地に位置し、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての住居跡が発見されています。また、遺跡からは2群29基の古墳も発掘されています。6～7世紀代の古墳が大半で、このうちA4号墳は直径20mの円墳です。須恵器や大刀、鏡、馬具のほか、ガラス玉など多彩な装身具が出土し、これらの出土品からこの地区を支配していた王の古墳と考えられます。

こう ぼう 弘法井戸跡

弘法大師が全国行脚中、老婆に水をわけてもらったお礼に水の出る場所を教え、そこを掘ると水が湧き出てきたと伝えられます。その後、この井戸を「弘法井戸」と呼ぶようになりました。

くらのだいら 蔵平遺跡と鳥形土器

昭和53年(1978)の調査で、縄文土器や集落跡が発見されています。遺跡からは鳥形土器が発見されており、首の文様は弥生時代後期の特徴をもつことからこの時代の集落跡と考えられます。

なかみょうじょう 仲明城跡

文献等に出てこない平山城で築城年代などは不明ですが、曲輪、土塁、堀切等の遺構が残っています。

国登録有形文化財

かん だ すい どう 天竜浜名湖鉄道神田隧道

上野部駅と天竜二侯駅の間に位置するコンクリート造りのトンネルです。昭和11年に廃線となった光明電鉄の施設として建設され、昭和15年からは国鉄二俣線として、昭和62年から天浜線として利用されてきました。平成23年、天浜線全線施設31件が国の登録文化財となり神田隧道はそのうちの1件として登録されました。(※線路内、隧道内には危険ですので絶対に立入らないでください。)